

この踊屋台を
 福島の『宝』として残していきます
 福島の『元気』として活用していきます
 福島の『心』として伝えていきます

福島の『宝』として

●市内巡行

市内の小学生や園児を中心に引き手として募集し、市内中心街を元気な掛け声とともに巡行します。地域間の垣根を越え集まった約100名の子供たちが約2kmにわたって「やーれ、やれ」の元気な掛け声とともに市街地を巡行しました。屋台1階の太鼓台では大太鼓、小太鼓によるお囃子、2階の舞台では共に伝統文化の継承に取り組んでいる「伝統文化みらい協会」の子供たちが大人顔負けの舞を披露しました。



●福島稲荷神社秋季例大祭での一般公開

10月に開催される例大祭に合わせ、福島稲荷神社に隣接する踊屋台伝承館での踊屋台の一般公開を行います。ライトアップや描いた半纏によるスナップ写真撮影など踊屋台を身近に感じていただきました。

福島の『元気』として

●ふくしま県北山車フェスタへの参加

さまざまなイベントに積極的に参加します。毎年初夏に実施される『ふくしま県北山車フェスタ』には、東日本大震災からの「福島復興のシンボル」として、イベントの中心を担う形で参加。オープニングで披露した子供たちの舞に観客から多くの喝采をいただきました。



福島の『心』として

●「まちの学校」まちの歴史講演会の実施(年一回)

福島の歴史、とりわけ中心部にまつわる歴史にスポットを当て、私たちの住む地元をもっと知ってもらい、好きになっていただく講演会を開催します。これまで「ふくしまの山車と屋台」「お稲荷さんの歴史と境内のあれこれ」「福島城下7町の由来」「駅前通りの誕生」などの講演を行いました。



●『地域』と『踊屋台』をテーマに伝承館に飾る壁画が完成

福島踊屋台伝承館の完成に合わせ、福島大学人間発達文化学類の渡邊晃一教授に壁画の制作をお願いしておりましたが、その完成を祝って平成28年10月29日に壁画に関する講演会と除幕式を行いました。壁画は方位を司る「白虎」「青龍」「朱雀」「玄武」の四神が福島市中心部を取り囲むように描かれた縦横2.6mの大型絵画です。

